

## 寄贈資料の紹介

雑誌「子どもと科学よみもの」

(科学読物研究会)

「子どもと科学よみもの」は、科学読物研究会の会報です。ホームページによると、会は、一九六八年九月に吉村証子宅で行われた「科学読物を読むための集まり」として始まり、十月に「科学読物研究会」という名称になりました。一九六九年一月には、「板倉聖宣を1月例会講師として、「科学読物研究会」の公式のスタート」とあります。研究会では、自然観察会や著者の講演会などの例会、新刊研究会、くらべ読みの会、雑誌やメールマガジンでの本の紹介活動などをしており、それが会報で報告されています。

会発足三年目の一九七〇年には四百冊の科学読物を分野別に配置したブックリスト「科学読物を選ぶ資料」を発行し、年報を発行していましたが、一九七五年十月からは、会報が月報となり年十回発行となつたとのことです。大阪府立中央図書館国際児童文学館には、「科学読物研究会」という会報が一九八二年七月二十五日発行の一二三号から所蔵されています。一二四号は抜けていますが、それ以降

は、現在にいたるまですべて寄贈をいただいている。一九九号（一九九〇年四月）からは、誌名が現在と同じ「子どもと科学よみもの」となっています。

科学読物研究会のみさんが、吹田市万博公園にあつた大阪府立国際児童文学館を訪問されたことがあります。私はこども室という児童サービスをする場所の担当でご案内をしました。科学の本は、「知識の本」というジャンル名でNDC順に配架していましたが、会の方たちは、「知識」というと、知識を得るだけの本のように思われる。「科学読物」という名称を使うことによって、読者が探究心をもつて自ら科学的な事象について考え、楽しくことが大切だという思いが伝わるので、ジャンル名を変えた方がいいという助言をいたきました。とても納得し、それ以後、私も「科学」ということばを使うようになります。



図1「子どもと科学よみもの」  
529号 2023年3月

全体の最新号は五二九号（二〇二三年三月、図1）。大別すると、講演会や科学あそびなどの実践報告と感想とともに、新刊や旧刊などの科学読物の紹介が掲載されています。

講演会報告としては、十二月例会「久賀弥生さんのお話『気がつくと、絵本講師と理科支援員二足の草鞋を履いていた…』」（原田佐和子）や、十二月の科学あそび分科会「一年のまとめとおもしろ工作紹介」「野呂さんの科学あそびびっくり箱をつくろう（3）」などがあります。科学遊びは写真もついていて、すぐに実践できそうです。本の紹介においては、「好みの新刊」（この本読みましたか？）などのたっぷりとした紹介とともに、「12月／1月の新刊研」という新刊書のリストがあります。詳しい本の情報は、評価も書かれていて、科学の本を選ぶ視点も知ることができます。科学的事象を楽しみ、科学の本の情報を得る貴重な資料で、会が五十五年も続き、500号をこえる会報の蓄積は、日本子どもの本の中の科学の本の充実にずっと寄与してきていると改めて思いました。

ホームページにも、「科学読物研究会の設立の目的と方針 中川宏」として、「科学は芸術とおなじく人間の精神の所産」と書かれています。

ホームページにも、「科学読物研究会の設立の目的と方針 中川宏」として、「科学は芸術とおなじく人間の精神の所産」と書かれています。

▽大阪国際児童文学館を育てる会は、子どもの文学・文化に心を寄せる人々により、一九八〇年八月大阪府吹田市万博公園内にある大阪府立国際児童文学館（開館は一九八四年五月）を、その設立趣旨によつてもりたてようと、自發的につくられた会です。

館の集書やイベントへの協力、大阪府への要望などをを行い、会報を隨時発行しています。年会費個人二〇〇〇円、団体二〇〇〇〇円。みなさまのお力で会を大きく育ててください。まだの方は今すぐ会員に！

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財團 土居安子